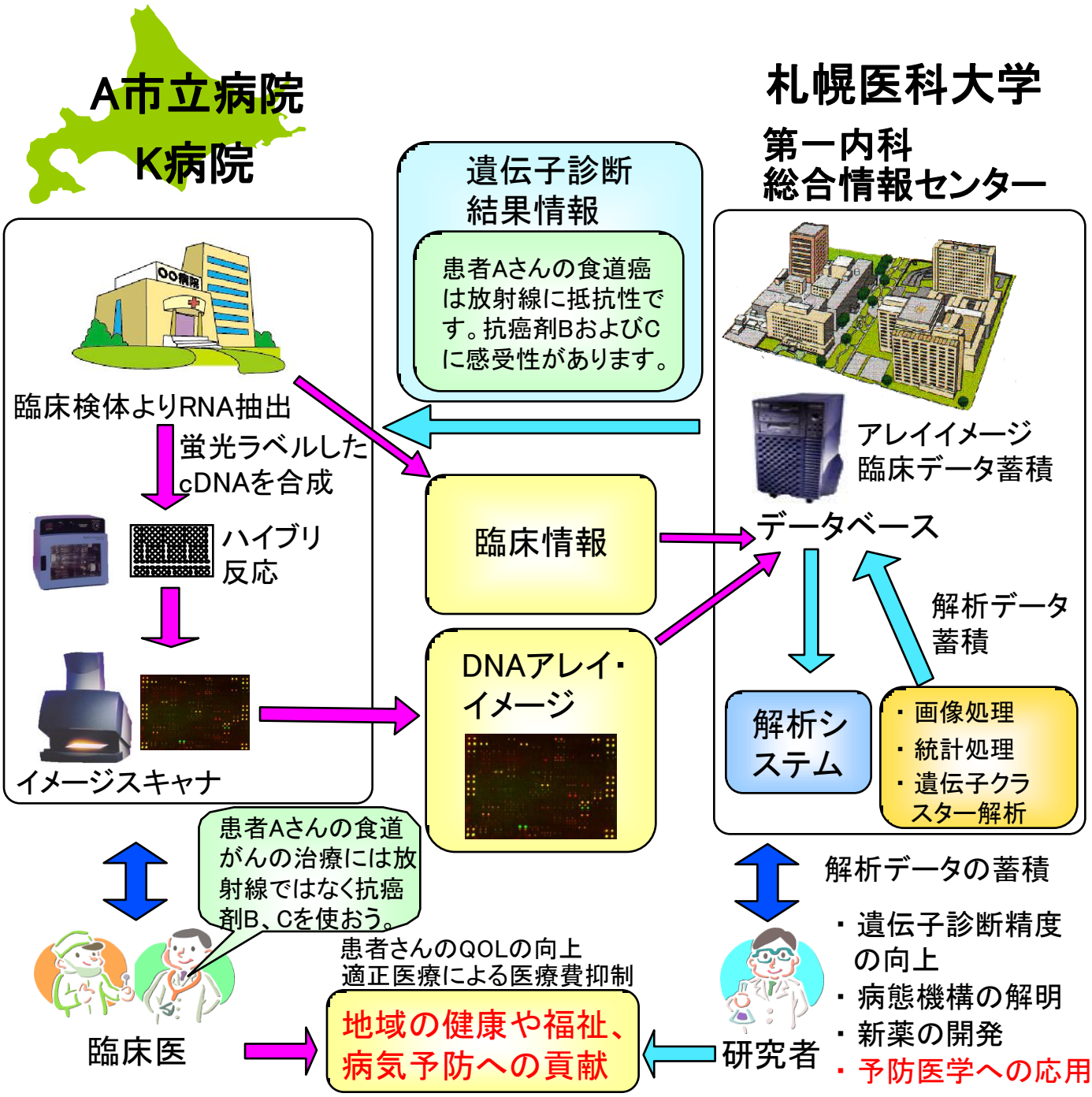
遠隔遺伝子診断システムによる地域医療、癌患者QOL向上への貢献

内科学第一講座 教授（研究責任者）篠村恭久・助手 山本博幸

内容の要約：癌は、遺伝子の異常が蓄積することにより、発生、進展していくことが明らかになってきました。遺伝子の異常により、抗癌剤や放射線治療などに対する感受性が異なることも明らかになってきました。近年、これらの異常な遺伝子を標的とする分子標的治療の発展はめざましく、臨床応用により患者さんのQOLの向上などに貢献しております。第一内科では、総合情報センターの協力のもとに北海道広域医療ネットワークを利用したDNAアレイ遠隔遺伝子診断の開発および実証実験を行い、地域に関係なく住民が最新・最適医療を受けることができる可能性を示してきました。現在、医療機関では血液等を採取するだけの新診断システムを構築しつつあり、患者さんだけでなく、疾病感受性予測などにより、地域の健康や福祉へのさらなる貢献をめざしております。



連絡先：山本博幸 (h-yama@sapmed.ac.jp)